

## AMDAからEPP支援による救急箱配布支援活動報告

救急箱配布に対する支援に関して、以下に報告いたします。

### 背景：

茅ヶ崎中央ロータリークラブは長年、パキスタンのポリオ撲滅活動(EPP:エンドポリオ イン パキスタン)に力を入れてきました。そこで、茅ヶ崎中央ロータリークラブ、AMDA、パキスタン現地協力団体であるナショナルルーラルサポートプログラム(NRSP)は2014年1月にパキスタンにおけるポリオ撲滅活動に関する事前調査を行い、2014年6月に「パキスタン家庭教育プログラム調印式」を行いました。パキスタン健康教育プログラムとは、未婚女性に健康に関する知識(ポリオを含む予防接種の重要性、応急処置、産前産後ケア、衛生観念、家族計画、など)を伝えることで、未婚女性自身、未婚女性の家族、その地域の健康を守っていく取り組みです。

健康に関する知識は定着してきていることが分かりましたが、得た知識を実行するには、物品が必要であることも分かりました。特に、応急処置の授業では、止血、傷の洗浄とそれぞれの疾病への基本的な対処方法を学びます。学んだ知識を実践するには、傷をきれいに保つためのガーゼ、テープ、包帯、絆創膏、ハサミなどが必要ですが、パキスタンでは物品入手を妨げる要因がいくつかあります。例えば、田舎では店まで行く交通手段がなかったり、パキスタンにおける性別問題(女性が家庭の主の許可なしでは、一人で外出できない場合もある)も要因の1つです。

そこで、茅ヶ崎中央ロータリークラブの支援により、パキスタン家庭健康教育プログラムの講師として育成したレディヘルスワーカー(LHW)やコミュニティーヘルスワーカー(CHW)、および今回教育を受けた未婚女性にも救急箱を配布し、今後はコミュニティにおける応急処置に利用します。

### 配布した救急箱の中身：

プラスチックの救急箱1、ガーゼ10枚パック4、三角巾2枚、ハサミ(中)1、イソジン消毒薬(60ml)1、抗生物質入り傷用パウダー1、4インチ幅包帯6、2インチ幅包帯6、アルコール消毒用パッド10、クリップ付き伸縮包帯2、2.5cm幅テープ1、100枚入りゴム手袋箱1、安全ピン(大)6、熱傷用クリーム、手指消毒用(100ml)1、絆創膏100、抗生物質入り軟膏1、アユルヴェェダ痛み止め軟膏1、体温計1、綿ボール100g1、化膿止め軟膏1、解熱鎮痛剤100、口内炎治療ジェル1、吐き気・嘔吐治療薬50、経口補水液パウダー20



配布された救急箱



### 配布先：

配布先はパキスタン家庭健康教育プログラム活動対象地域であるパキスタン南部シンド州の州都カラチから車で3時間のところに位置するタッタ(Thatta)県ミルプルサクロ(Mir Pur Sakro)村と車で5時間のところに位置するタンド・ムハマッド・カン県ディグモリ村。パキスタン家庭健康教育プログラムの講師であるLHW・CHW及び今回教育を受け、成績優秀であった未婚女性(LHW/CHWが不在の場合)計148名に対して救急箱を配布しました。残りの2箱は、欠陥品があった時のためにNRSPハイデラバードオフィスで一時的に保管しています。残り2箱も必要な地域の担当者に配布します。

タッタ (Thatta) 県ミルプルサクロ村：

2017年12月から2018年1月にかけて74名に対して救急箱を配布。内6名はLHWやCHWで、68名は今回教育を受けた未婚女性であった。

タンド・ムハマッド・カン(TMK) 県ディグモリ村：

12月末から1月にかけて74名に対して救急箱を配布。内12名はLHWやCHWで、62名は今回教育を受けた未婚女性であった。



(左上) 応急処置の講義で話をする村のリーダー  
(上) 応急処置の講義を聞く未婚女性  
(左) NRSP 地区担当者から救急箱を渡される  
パキスタン家庭健康教育プログラム受講生

NRSP 総裁バジュワ氏と在カラチ日本国磯村総領事から救急箱を渡される LHW

